

2020 - 21 年度 国際ロータリーのテーマ
『ロータリーは機会の扉を開く』
RI 会長 ホルガー・クナーク

川崎北ロータリークラブ会長の方針
『ONE TEAM』
会長 松山 直樹



川崎北ロータリークラブ会報



会長 松山 直樹

幹事 谷口 一成

会報委員長 大塚 正一

事務所：〒211-0063 川崎市中原区小杉町 3-70-4 ホーユウパレス武蔵小杉 104 TEL 044-722-8037 メール：knrc@nifty.com

URL：http://kawasaki-north-rc.blue.coocan.jp/

例会：毎週水曜日 12：30

二子玉川エクセルホテル東急

令和3年4月13日（火）

呉田 幸子さんよりメッセージ

「ロータリー財団地区奨学生・呉田 幸子さん 気をつけて行ってらっしゃい！」

参加者

松山 直樹 会長

谷口 一成 幹事

武田 信平 カウンセラー（実質）

大塚 正一 カウンセラー（名目）

4月12日から5月31日の間、東京都の特定の地域に新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置の実施が要請されました。

そのような時期ではありましたが、翌日4月13日に当クラブのごく限られた人数で、ロータリー財団地区奨学生・呉田 幸子さんの壮行会を行いました。

コロナ禍のため多くの方にお声がけをせず、申し訳ありませんでした。当日は松山会長、谷口幹事、カウンセラーを務めた武田会員と大塚が出席しました。

さらに呉田さんの大学時代の後輩で、一緒に慶應義塾大学・サッカー部のマネージャーを務め、現在は日刊スポーツで記者（川崎フロンターレ番）をされている杉山さんが加わり、6名でひっそりとした会合にさせてもらいました。18時開催、20時終了を遵守しました。会場の「よろ助」はうなぎ専門店であり、出てくるすべての料理がうなぎです。「東京一安い」と看板に書いてあるとおり、格安でうなぎのフルコースが食べられました。呉田さんも「これで当分海外でうなぎが食べられなくても大丈夫です」といい思い出にしてくれたようでした。

呉田さんが出席された3月の例会（卓話）で話されていたように、無事5月4日 JICA の企画調査員として、中央アメリカの国・コスタリカに赴任することとなりました。我々も日本から、呉田さんの活躍を応援したいと思います。

※慶應義塾のサッカークラブは、1927年に「慶應義塾体育会サッカー部」へ名称変更されました。そのため、この度の会報においても「サッカー」と記載しています。

出典：http://keio-soccer.com/club/144.html

この度、JICA の企画調査員としてコスタリカ（勤務地は首都・サンホセ）に派遣されることになりました。先日、卓話にお邪魔した際にお話しさせていただいたような修士課程で学んだ内容を活かせる仕事に就くことができ、大変嬉しく思うと同時に身の引き締まる思いです。現地では、JICA のプロジェクト（地熱発電所、環境保全、障害者生活支援など）の企画・監理が主な業務です。川崎北ロータリークラブの皆様からの温かい応援を力にし、コスタリカと日本を繋ぎ人々の幸せに貢献できるよう努めたいと思います。まだまだコロナ禍が収まらない中での海外渡航は不安もありますが、健康第一で頑張ります。コスタリカは自然豊かで生物が多様、常夏でフルーツやコーヒーが美味しいそうです。是非現地でお待ちしております！

コスタリカってどんな国？



出典：https://www.jica.go.jp/costarica/index.html

国名の「コスタリカ (Costa Rica)」とは、スペイン語で「富める海岸」という意味があります。中央アメリカの地塊地帯に位置し、東側はカリブ海、西側は太平洋の海に臨みます。

国土の中央には山脈が連なり、美しい自然豊かな共和制の国家です。中央アメリカの国の中では長い民主主義の伝統を持つ国であり、中央アメリカでは例外的に政治的に安定が続き、かつ経済状態も良好で「中米の楽園」と呼ばれるほどの国家でした。

しかし、1990年代以降は麻薬の横行により治安の悪化と社会の不安定化が進行しています。コスタリカは、地形的に南米の麻薬がアメリカ、カナダへと運ばれる際の中継地点となってしまいます。そのため現在でも大量の麻薬が国内へ流入してきます。そのため首都・サンホセを中心に大都市圏では麻薬に関する犯罪が多発しています。殺人事件は日本の30倍以上の発生率です。

ただ、その一方で自然に囲まれた国立公園などの主な観光地では犯罪被害が少なく、女性の1人旅で訪れる方でも安心であると言われていています（信じるかどうかはあなた次第です！）。

[文章インターネットの紹介記事より]

記：大塚 正一

令和3年5月12日（火）

「キーパーソン21へパソコン・セミナー代の贈呈」

参加者

松山 直樹 会長、谷口 一成 幹事、
クルーズ 由美子 親睦委員長

認定 NPO 法人 キーパーソン 21

代表理事 朝山 あつこ 様

事務局スタッフ 齋藤 安司 様



【活動の目的・趣旨】

子ども達、主として小学生、中学生、高校生世代を対象に、様々な職業の社会人との交流の場を作る。彼らが自分の将来について考えるきっかけを持たせ、視野を広げ、社会への旅立ちの自覚と自立心の醸成を促し子ども達の健全な育成に寄与することを目的とする。

【団体の設立経緯】

設立のきっかけは、代表理事 朝山氏の長男が体験した学級崩壊の深刻化。

そこで「地域の大人が子どもと関わりながら、子どもに自分らしさを活かせる仕事や役割を考える機会を提供したい」と、子どもに夢と職業意識を持たせるキャリア教育プログラムを2000年に開発し、教育の現場で実践した。プログラムを始めると、子どもたちが夢について楽しく語るなど目に見える変化がある。しかし、学校ではプログラムの認知度が低く、受け入れがなかなか広がらない。また市民会館などで活動を始めると、就職活動を控え自分の経歴や経験を見直し、自己分析を行いたい大学生が多く訪れる。

「このままでは団体が対象としたい小中高生に直接の夢を見つけるお手伝いができなくなる。」朝山代表は再度学校にキャリア教育に関するビジョンを伝え、川崎市を始め都内の学校から協力を取り付けることに成功した。活動の幅は広がり2011年度までに、プログラム実施校数は100校におよび、2万人以上の子どもたちがプログラムを受講している。

【主な活動内容】

1. キャリア教育プログラムの開発
2. ファシリテーターの養成
3. 学校などにおけるキャリア教育プログラムの実施
4. パートナシップ提携による全国各地への普及
5. 講演・執筆活動
6. キャリア教育などに関する調査・研究

令和3年5月12日（火）

「こども食堂てらこみーるへ支援金の贈呈」

参加者

松山 直樹 会長、谷口 一成 幹事
クルーズ 由美子 親睦委員長

かわさきこども食堂ネットワーク副代表、

てらこみーる副代表 大澤 洋子 様



【活動の目的・趣旨】

本取り組みは、家庭の貧困や保護者などの力量的限界により、孤独を抱える子どもたちに対する無料の学習サポートに加え、心をゆたかにする季節感を取り入れた無料の美味しい食事を提供する。さらに季節開催または不定期開催による体験型ワークショップなどの能動的な活動の充実を図り、寺子屋講師や調理のボランティアなどのサポーターのみならず、寺子屋や食事に参加する大人を含む参加者全員が相互に主体となって地域に根付き、家庭や地域の機能を補完することを目的とする。

【主な活動内容】

「てらこみーる」とは、「寺子屋」と「ミール（食事）」を合わせた造語である。調理の時間に並行して開催される「寺子屋タイム」では、ボランティアが宿題などを持参する子どもたちの学習をサポートする。お昼の時間に開催される「ミール（食事）タイム」では、野菜ソムリエが考案したレシピに基づき、18歳以下の子どもに対して無料で季節感あるおいしい食事を提供している。参加する子どもたちは、思い思いに学習や工作をしたり、調理を体験したり、テーブルごとに寺子屋講師とともに「いただきます」をするなどして楽しんでいる。なお、大人が食事の時間だけ参加することも可能である。

会場：川崎市 JR 南武線・武蔵新城駅から徒歩2分
コミュニティカフェ「メサ・グランデ」

日時：毎月第3日曜日

午前 10:30～11:45

寺子屋

12:00～食堂

費用：子ども無料

大人 500円



出典：<https://www.greenpeople.co.jp/customer/293/>